

ミカン色付く 古里の良さ 伝えたい

神奈川県松田町松田惣領のミカン農家・内藤ミチ子さん(68)は自ら作詞した「観光音頭」と「桜らんまん」の2曲をCDに収録し、このほど松田町役場に寄贈した。町は各種行事や健康福祉センターなどでBGMとして活用することを検討しており、町の魅力を網羅した内藤さんの歌が町の活性化に一役買いそうだ。

神奈川県松田町 内藤ミチ子さん



完成したCDを手にした内藤さん

農家が作詞、町にCD贈る

「観光音頭」は、内藤さんが所有する松田山のミカン園で、農作業の合間に眺めた足柄平野や相模湾、富士山などの風景から、「町の魅力をPRできる詞を作ろう」とひらめいた。町の四季をテーマに、「茶摘む娘の手がはすむ」柄平野や相模湾、富士山など「みかん色つきえびす顔」な「観光音頭」な「心ときめめいとを盛り込んでいる。一方、「桜らんまん」は松田山に咲き誇る「河津桜」をテーマに、桜の開花と子ども

く花となれ」「桜咲く咲く夢ざくら」などのフレーズに、夢や希望への願いを込めている。

完成した詞は日本音楽アカデミー作詞研究会の作曲サーピスを活用し、歌が吹き込まれ、CDとカセットテープが出来上がった。演歌調のメロディーで聴きやすく、思わず体でリズムを取りたくなる曲になっている。

内藤さんが作詞を始めたのは1年前。同研究会の講座募集広告を見て、気軽な気持ちで申し込んだのがきっかけだという。内藤さんは「自分が作った詞が歌になり、とてもうれしい。この歌を通じてみなさんに松田町の良さを知ってほしい」と話している。

(神奈川県・西湘)